

みえ森と緑の県民税基金事業に関する報告事項

1. e-モニターアンケート結果における「みえ森と緑の県民税」
認知度の分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. みえ森と緑の県民税を活用して導入した木製備品の
活用状況調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

e-モニターアンケート結果における
「みえ森と緑の県民税」認知度の分析結果

1. アンケート調査の概要

対象：平成 29 年から令和 2 年の 4 ヶ年に実施した e-モニターアンケート結果

回答数：2,692 人

回答者の構成

1) 年代別（人）

	全体	20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
回答数	2,692	185	555	728	592	475	157
構成比	—	6.9%	20.6%	27.0%	22.0%	17.6%	5.8%

2) 職業別（人）

職種	回答数	構成比	職種	回答数	構成比
医療・福祉関係	270	10.0%	公務員	91	3.4%
運輸・通信業	95	3.5%	商業・サービス業	441	16.4%
学生	34	1.3%	製造業	391	14.5%
教育・保育関係	148	5.5%	農林漁業	38	1.4%
金融・保険関係	89	3.3%	無職	610	22.6%
建築・不動産関係	144	5.4%	その他	341	12.7%
			全体	2,692	—

3) 地域別（人）

	全体	北勢	中勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
回答数	2,692	1,318	740	323	242	69
構成比	—	49.0%	27.5%	12.0%	9.0%	2.5%

対象設問：

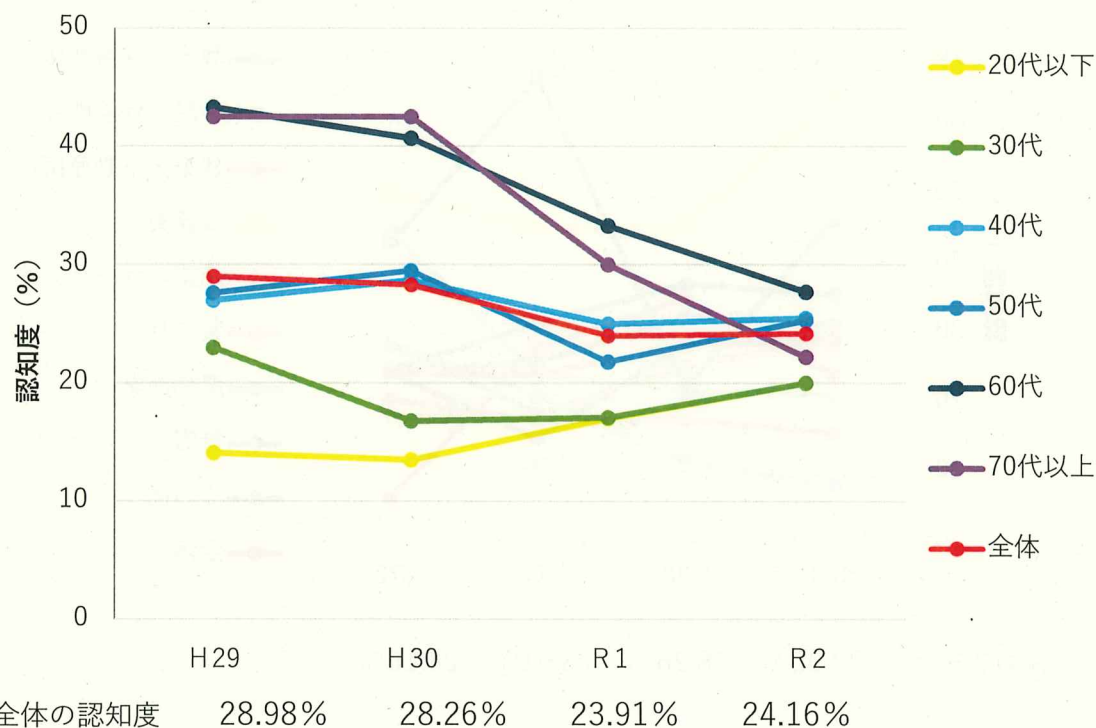
「みえ森と緑の県民税」は、個人と法人の県民税均等割に上乗せして納めて
いただいております。税額は、個人が年額 1,000 円、法人は資本金額に応じた県民
税均等割の 10%相当額（年額 2,000 円～80,000 円）です。

あなたは、「みえ森と緑の県民税」が課税されていることをご存知ですか。

2. 調査結果

1) 年代別「みえ森と緑の県民税」認知度

年代別認知度の推移



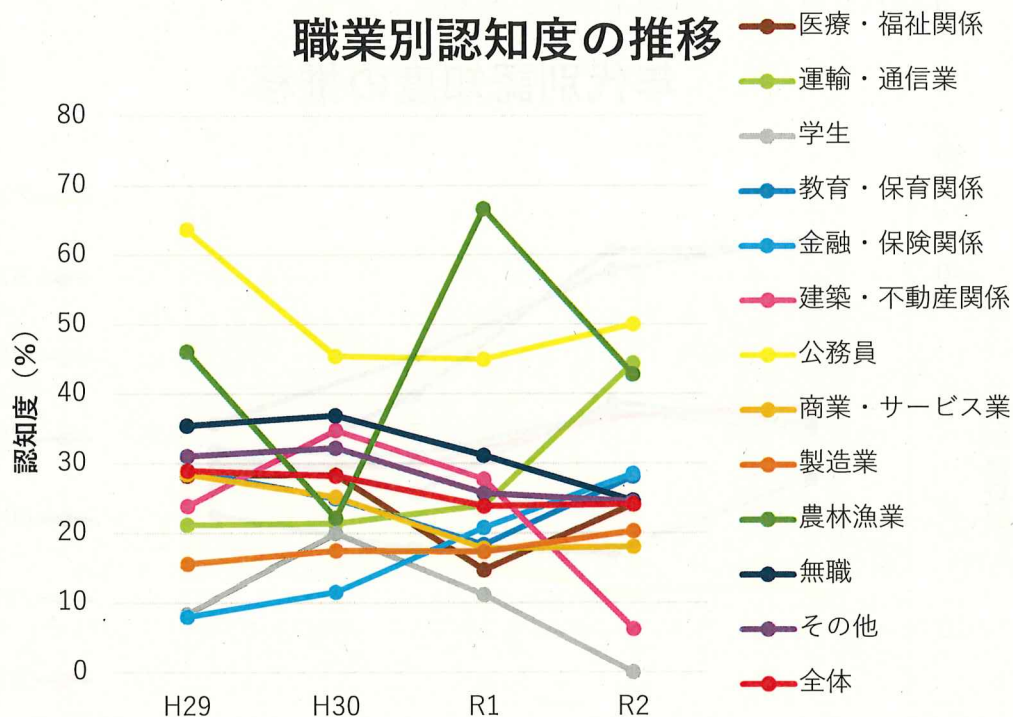
・ 4カ年の平均の認知度

20代以下、30代の若い世代で認知度が低く、60代、70代以上の高齢者で認知度が高い結果になりました。

・ 平成29年度から令和2年度の認知度の変化

平成30年までは若い世代と高齢者の認知度に大きな開きがありましたが、令和元年度以降、高齢者の認知度が下がるとともに、若い世代の認知度が上昇したことにより、令和2年度は年代別の認知度の差が縮まりました。

2) 職業別「みえ森と緑の県民税」認知度



全体の認知度 28.98% 28.26% 23.91% 24.16%

・ 4 ヶ年の平均の認知度

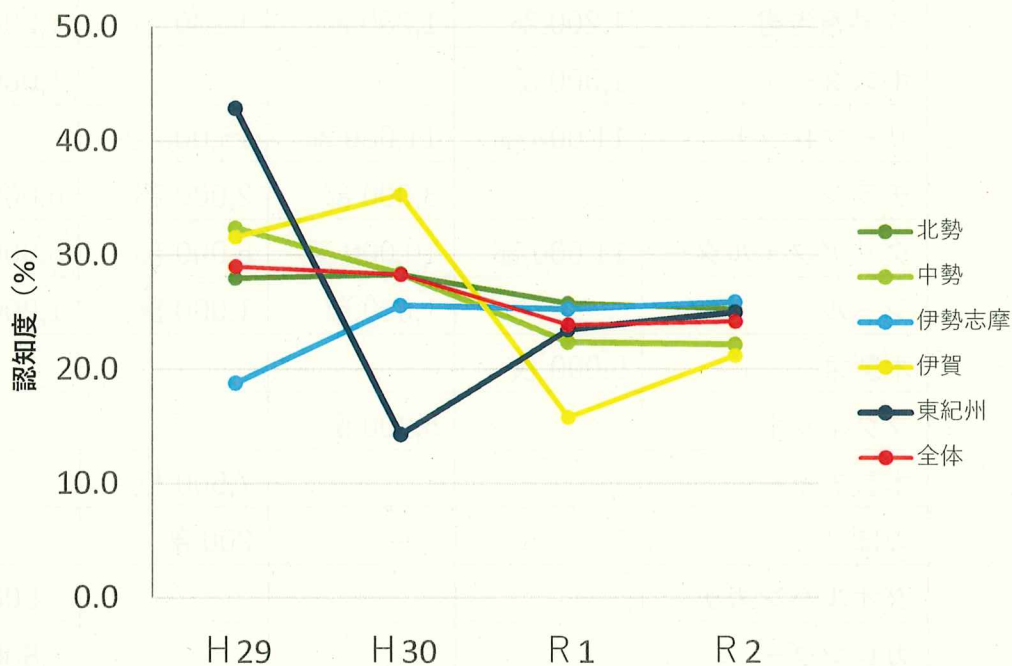
農林水産業及び公務員で認知度が高く、学生、製造業で認知度が低い結果となりました。

・ 平成 29 年度から令和 2 年度の認知度の変化

金融・保険関係、運輸・通信業で認知度が上がっていますが、学生、建築・不動産関係及び商業・サービス業で認知度が下がっています。

3) 地域別「みえ森と緑の県民税」認知度

地域別の認知度(H29～R2)



全体の認知度 28.98% 28.26% 23.91% 24.16%

・ 4 ヲ年の平均の認知度

4 年間の認知度に明確な地域差は見られませんでした。

・ 平成 29 年度から令和 2 年度の認知度の変化

伊勢志摩地区で認知度が上がっていますが、中勢地区及び伊賀地区で認知度が下がり、令和元年以降地域差が縮まりました。

3. 「みえ森と緑の県民税」普及・啓発の取組実績

1) 啓発物品の活用状況（作成数）

啓発物品	H29	H30	R 1	R 2
成果報告書	1,200 部	1,200 部	1,200 部	1,200 部
ポスター	1,000 部			1,000 部
リーフレット	11,000 部	11,000 部	15,000 部	
チラシ		3,000 部	2,000 部	6,000 部
クリアフォルダー	11,000 部	10,000 部	6,000 部	6,000 部
シール		1,000 部	1,000 部	1,000 部
木製葉	5,000 枚			
マグネット		5,000 個		
木製チャーム			7,500 枚	
のぼり			200 部	
タオルハンカチ				7,500 枚
カレンダー				2,800 部

2) 主な広報活動

H29：ポスター掲出（コンビニ）、リーフレット配架（商業施設）

H30：チラシ配架（商業施設）、ラジオ CM（30 秒×75 回）

R 1：ラジオ CM（30 秒×75 回）

テレビスポット放送（15 秒×49 本）

※甲子園三重県予選及び新春知事放談番組に合わせて放送

シネアド（7 か所、15 秒×6,100 回程度）

携行用印刷物（ポケット時刻表）主要 9 駅×10,000 部

FM 三重出演、三重テレビ出演、保険代理店を通じたチラシ配布

R 2：ポスター掲出（主要 11 駅）（商業施設）、チラシ配架（コンビニ）、

リーフレット配架（商業施設）、FM 三重出演

シネアド（3 か所、15 秒×1,820 回程度）

※このほかに、例年、県や各市町でイベント参加者やアンケート協力者へ啓発物品を配布するなどして、周知活動を実施しました。

3) 市町における令和2年度パネル展示実績

実施主体	実施時期	実施場所
四日市市	令和3年2月	市役所農水振興課窓口
桑名市	令和3年2～3月	市役所2Fロビー
鈴鹿市	令和3年1～2月	市役所7F農林水産課前
亀山市	令和3年1～3月	市役所2Fカウンター
いなべ市	令和3年1月	市役所ビュックコア棟1F展示場
木曾岬町	令和3年2月	役場1Fロビー
東員町	令和3年1～2月	役場2Fロビー
菰野町	令和3年3月	役場2F
朝日町	令和3年2～3月	役場1Fロビー
川越町	令和3年2～3月	役場1Fロビー
津市	令和3年1～3月	白山庁舎
松阪市	令和3年3月	市役所
大台町	令和3年2～3月	役場1Fロビー
志摩市	令和3年2～3月	観光農園
玉城町	令和3年3月	アスパア玉城
名張市	令和3年2月	市役所1F市民ホール
伊賀市	令和3年2月	市役所3F
尾鷲市	令和3年2月	中央公民館
紀北町	令和2年6月 ～令和3年3月	始神テラス
	令和3年2月	役場町民ホール
熊野市	令和3年3月	文化交流センター
御浜町	令和3年2月	役場1Fホール
紀宝町	令和3年2月	役場1F産業振興課前

4. 分析結果を踏まえた今後の方針

e-モニターアンケート調査の結果より、H29 及び H30 は若い世代で認知度が低い傾向が見られたため、高校野球三重県予選に合わせたテレビCM 放送やシネアドなど、若い世代を意識した広報活動を実施したことにより、認知度が向上していると考えられます。一方、高齢者の認知度が下がってきていることから、ポスター等掲示物や印刷物の文字を大きくする等の対策を講じる必要があります。

また、職業別では、構成割合の多い商業・サービス業や製造業、及び建築・不動産関係の職種で認知度が低い傾向がみられるため、広報誌や学校通信など、職業にかかわらず幅広い職業の方が目にする媒体を意識した広報活動を進めていきます。

これまで、みえ森と緑の県民税を活用した市町の取組の周知を図るため、市町が行うパネル展示において、県が作成した啓発パネルの電子データを市町に提供するほか、啓発物品を製作する際には市町の意見を参考にタオルハンカチやのぼり旗などを製作し、啓発活動の際に活用してきました。地域別の認知度には明確な差は認められませんでした。今後も引き続き市町と連携しながら、みえ森と緑の県民税の啓発を進めてまいります。

みえ森と緑の県民税を活用して導入した木製品の 活用状況調査結果

1. 調査目的

小中学校で使用する授業用の机・椅子は、児童・生徒が日々ふれあう最も身近な道具の1つであり、県産材でできた木製机・椅子を導入することで、児童・生徒が普段から木のぬくもりや質感を感じることができるうえ、森林保全の大切さや木材利用の意義を学ぶツールとしての活用が期待できます。

このため、平成26年度の「みえ森と緑の県民税」導入からこれまでに5市町において、みえ森と緑の県民税市町交付金92,697千円を活用し、小中学校16校に2,725組の授業用木製机・椅子が導入されてきました。

しかし、導入した授業用机・椅子について「使い勝手が悪い」「破損しやすい」等の状況が一部で報道されたことから、これまでに導入した授業用木製机・椅子の活用状況を確認し、本県民税の2つの基本方針と5つの対策に応じて、より効果的に活用されるよう、製品や活用方法の改善につなげることを目的として追跡調査を実施しました。

○みえ森と緑の県民税を活用した授業用木製机・椅子の導入状況

市町名	事業名	導入年度	導入学校数(校)	導入数(組)
明和町	学校木製備品購入事業	H26～R1	6	1,171
多気町	県産材を活用した学校机・イス整備事業	H26～H30	6	777
尾鷲市	木とふれあう学校環境づくり事業	H26、R1	2	180
鳥羽市	神島小中学校木製備品等購入事業	H28	1	37
亀山市	川崎小学校改築事業	H30	1	560

2. 調査対象

みえ森と緑の県民税市町交付金を活用して、平成 26 年度から令和元年度に授業用木製机・椅子を導入した 5 市町の小学校又は中学校（各市町 1 校）

3. 調査結果

小中学校において導入された授業用木製机・椅子は概ね有効に活用されており、中には児童が「マイデスク」として 6 年間使用したものを一部修繕したうえで、森林教育と合わせて新 1 年生が親子で天板を入れ替えて再び使用する循環が、体系化されている事例もありました。

しかし、製品の重さや汚れ、ネジの緩み等を理由に、これまで使用してきた机・椅子を次の新入児童へ引き継ぐことなく別製品への入替えを予定している町もありました。

また、木製の机・椅子と一般的なスチール製の躯体に木製の天板を取りつけたものとの重さに差がないなどの、製品の特性が正しく現場に伝わっていないことに加え、不備が生じたときに製造・販売元に気軽に相談できる体制が構築されていない状況が見受けられました。

○ 調査で聞かれた教育現場の声

【肯定的な意見】

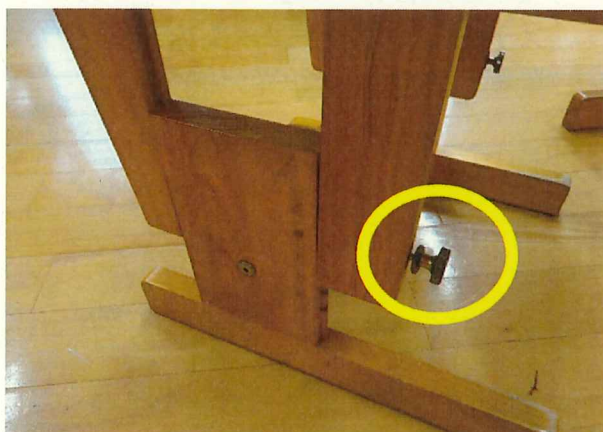
- ・木のぬくもりや質感など、子どもたちの教育にはよいと思う。
- ・スチールのものより全木製のもののほうがいいと感じるので、改修予定の小学校に、同じ全木製の机・椅子の導入を検討したい。
- ・平成 26 年度に導入した学校で上手に使えているので、令和元年度に統廃合した学校へも同じタイプのものを導入した。

【否定的な意見】

- ・ネジが緩みやすく、紛失や折れることがある。
- ・低学年には重くて移動が大変。
- ・傷つきやすく、黒ずみや日焼けが気になる。



組立式の木机・椅子を導入した1年生の教室（尾鷲市）
令和元年度まで6年生が使用していたものを令和2年度に天板を入替え、新1年生が使用している状況。



高さ調整のネジが緩んだまま使用している状況



机の引き出し部分や椅子の側面に目立った汚れがみられる状況

4. 調査結果への対応

調査結果を各市町と製造・販売元へ情報提供するとともに、授業用木製机・椅子を適切な管理のもと森林教育に活用するよう通知しました。

なお、今回の調査のきっかけとなる報道の取材を受けた町については、県より改めて有効活用について検討するよう促し、町と製造・販売元及び県の3者で、導入した机・椅子の今後の活用や入れ替えを予定している机・椅子の仕様について意見を交わしました。

また、今回の調査結果を踏まえ、製造・販売元では、これまでに授業用木製机・椅子を納入した市町へ使用状況等の聞き取りをし、納入後も適切なアフターサービスができる体制づくりをはじめています。

本来、本県民税を活用して導入した授業用木製机・椅子は、導入することが目的ではなく、導入後に生徒たちが日常的にふれ、手入れをしながら使用することで木材のぬくもりや特性を知るとともに、森林保全の大切さや木材利用の意義を学ぶためのツールとして活用することを目的としているため、今後も教育現場への導入を推進していくとともに、教育現場の環境に応じた仕様の提案や導入後の適切な管理について相談にのるなどして、市町を支援していきます。

○調査対象となった学校で導入された授業用木製机・椅子



【木金混合タイプ】

スチール製の躯体に木製の天板
重量：机 9.3 kg (メラミン加工)、
椅子 4.9 kg (ウレタンクリア加工)



【組立式】県外メーカーモデル

重量：机 9.2 kg
椅子 4.4 kg (ウレタンクリア加工)



【オリジナルモデル】

重量：机 10.4 kg
椅子 5.1 kg (ウレタンクリア加工)

※表面の仕上げについては、メラミン加工、ペット樹脂加工、ウレタン加工、ウレタンクリア加工等要望に応じて対応可能。